

ATEN ジャパン株式会社

# CCKM セットアップガイド Appendix1

マルチホーム環境での CCKM インストールガイド

# 目次

概要 .....	3
動作確認バージョンについて .....	3
ライセンスキーについて .....	3
1 台のマルチホーム構成のサーバに CCKM 環境を構築する方法 .....	4
動作確認 .....	4
2 台のマルチホーム構成のサーバに CCKM の冗長化をする方法 .....	5
セカンダリサーバの構築 .....	5
プライマリサーバの構築 .....	5
動作確認 .....	6
ケース 1・サーバリプレースによる CCKM 環境再構築 .....	7
手順 .....	7

## 概要

- ▶ サーバがマルチホーム(複数の NIC を使用する)の構成にて CCKM をインストールする場合は、以下の要領にてインストールを行ってください。

- CCKM インストール時、KE デバイスと通信するセグメントの NIC だけを起動させてください
- CCKM インストール完了/CCKM 冗長構成のセットアップ/デバイスの登録を完了してから KE デバイス以外の用途に使用している NIC を有効にしてください
- サーバリプレース時も、一度 KE デバイスと通信する NIC のみを起動した状態で冗長構成を復旧させてから、残りの NIC を有効にしてください

- ▶ 複数の NIC が有効の状態にて CCKM をインストールした場合、OS 側の判断によって KE デバイスのセグメント以外の NIC にて通信するよう割り当てられることがあります。この場合、CCKM のアンインストールを行わないと復旧できないケースがございます。
- ▶ 製品のインストール手順については製品マニュアル等の資料を参照ください。

## 動作確認バージョンについて

- ▶ 2019 年 9 月時点で最新版となる以下の製品のファームウェア、バージョンにて動作を確認しております。

- CCKM: v2.1.208
- Java Runtime Edition v8u201
- KE6900: v2.1.201(動作確認用として使用)

## 注意

- ▶ インストールする OS で、複数の NIC が起動されている状態で CCKM のインストール、冗長構成の構築、KE デバイスの登録は行わないでください。
- ▶ 複数の NIC を起動した状態でインストールなどをした場合、OS や JAVA の自動的なネットワーク割り振りによって、CCKM やデバイスが想定されているネットワークに通信ができなくなるおそれがございます。

## ライセンスキーについて

- ▶ CCKM を 2 台でサーバを構築する場合、別売の USB ライセンスキーをプライマリ、セカンダリにそれぞれ接続する必要があります。(合計 2 つの USB ライセンスキーが必要となります)

## 1 台のマルチホーム構成のサーバに CCKM 環境を構築する方法

1. プライマリサーバで KE デバイスと通信するための NIC のみを有効にし、他の NIC は無効にする

### 例・プライマリサーバ本体設定

NIC1	192.168.0.100	有効
NIC2	169.254.10.10	無効

NIC1 から 192.168.0.60 (KE6900R)や 192.168.0.61(KE6900T)と通信可能

2. Java Runtime Edition をインストールする
3. 環境変数の Path で、Java の Bin フォルダを登録する
4. OS 再起動後、CCKM を管理者権限でインストールする
5. CCKM 起動後、プライマリサーバに CCKM の USB ライセンスキー(別売)を接続する
6. CCKM の管理画面から、シリアル登録をして、機能を解除する

▶ これで、プライマリサーバの準備は出来ました。

## 動作確認

7. 同期が有効になると、自動的にデータベースが同期されるため、CCKM のログで同期が成功したか確認する
8. 成功した後に、プライマリサーバから KE デバイスの登録を行う
9. CCKM の環境を構築する(ユーザーアカウント追加、プロファイル作成など)
10. 登録を行った後、KE デバイスの任意のレシーバーからログインし、接続できるか確認する
11. 問題なく利用ができることを確認してから NIC2 を有効にする

## 注意

- ▶ CCKM がインストールされたファイヤーウォールが有効になっている場合、デバイスが登録できてもプレビュー画面が見えない、ログインできないケースがあります。マニュアル参照の元、各ポートが開通しているか確認してください

## 2 台のマルチホーム構成のサーバに CCKM の冗長化をする方法

- ▶ 以下は、2 台のマルチホームのサーバに CCKM のインストールをして、冗長構成を構築する手順を記しています。
- ▶ インストールするサーバは以下の順番でセットアップを行ってください。

1. セカンダリサーバ
2. プライマリサーバ

### セカンダリサーバの構築

1. セカンダリサーバで KE デバイスと通信するための NIC のみを有効にし、他の NIC は無効にする

#### 例・セカンダリサーバ本体設定

NIC1	192.168.0.101	有効
NIC2	172.16.0.100	無効

NIC1 から 192.168.0.60 (KE6900R)や 192.168.0.61(KE6900T)と通信可能

2. Java Runtime Edition をインストールする
3. 環境変数の Path で、Java の Bin フォルダを登録する
4. OS 再起動後、CCKM を管理者権限でインストールする
5. CCKM 起動後、セカンダリサーバに CCKM の USB ライセンスキー(別売)を接続する
6. CCKM の管理画面から、シリアル登録をして、機能を解除する
7. CCKM の冗長設定を有効にして、プライマリサーバの IP アドレスを指定する

- ▶ これで、セカンダリサーバの準備は出来ました。

### プライマリサーバの構築

8. プライマリサーバで KE デバイスと通信するための NIC のみを有効にし、他の NIC は無効にする

#### 例・プライマリサーバ本体設定

NIC1	192.168.0.100	有効
NIC2	169.254.10.10	無効

NIC1 から 192.168.0.60 (KE6900R)や 192.168.0.61(KE6900T)と通信可能

9. Java Runtime Edition をインストールする
10. 環境変数の Path で、Java の Bin フォルダを登録する
11. OS 再起動後、CCKM を管理者権限でインストールする
12. CCKM 起動後、プライマリサーバに CCKM の USB ライセンスキー(別売)を接続する
13. CCKM の管理画面から、シリアル登録をして、機能を解除する
14. CCKM の冗長設定を有効にして、セカンダリサーバの IP アドレスを指定し、administrator 権限の id と pass を入力

▶ これで、プライマリサーバの準備は出来ました。

## 動作確認

15. 同期が有効になると、自動的にデータベースが同期されるため、CCKM のログで同期が成功したか確認する
16. 成功した後に、プライマリサーバから KE デバイスの登録を行う
17. CCKM の環境を構築する(ユーザーアカウント追加、プロフィール作成など)
18. 登録を行った後、KE デバイスの任意のレシーバーからログインし、接続できるか確認する
19. 問題なく利用ができることを確認してからプライマリ、セカンダリサーバそれぞれの NIC2 を有効にする

## 注意

- ▶ CCKM がインストールされたファイヤーウォールが有効になっている場合、デバイスが登録できてもプレビュー画面が見えない、ログインできないケースがあります。
- ▶ マニュアル参照の元、各ポートが開通しているか確認してください

## ケース 1・サーバリプレイスによる CCKM 環境再構築

### 【要約】

- ▶ プライマリサーバでハードウェア交換が発生。
- ▶ その状態からの復旧する手順

### 【状況】

- ▶ CCKM はセカンダリサーバで稼働している

## 手順

1. 新規に用意した、プライマリサーバを当文書の「2台のマルチホーム構成のサーバにCCKMの冗長化をする方法 > プライマリサーバの構築」に沿って、KE デバイスに接続する NIC のみを有効にしたプライマリサーバを構築する
2. バックアップを取得している場合、データのレストアを行う
3. プライマリサーバから冗長構成を有効にし、セカンダリから機能が移管されるか確認する  
※この時、セカンダリサーバのセッション状況はプライマリサーバへ複製されません。セッション状況を把握される場合は、一度プライマリサーバから接続中のセッションを全て切断してください。その後、新規にレシーバーがログインし直した接続から新規セッションとして CCKM から確認ができます
4. プライマリの機能が動作するか確認するため、任意のレシーバーからログインを行い、操作を行う
5. 操作ができることを確認してから、プライマリサーバの NIC を全て有効にする